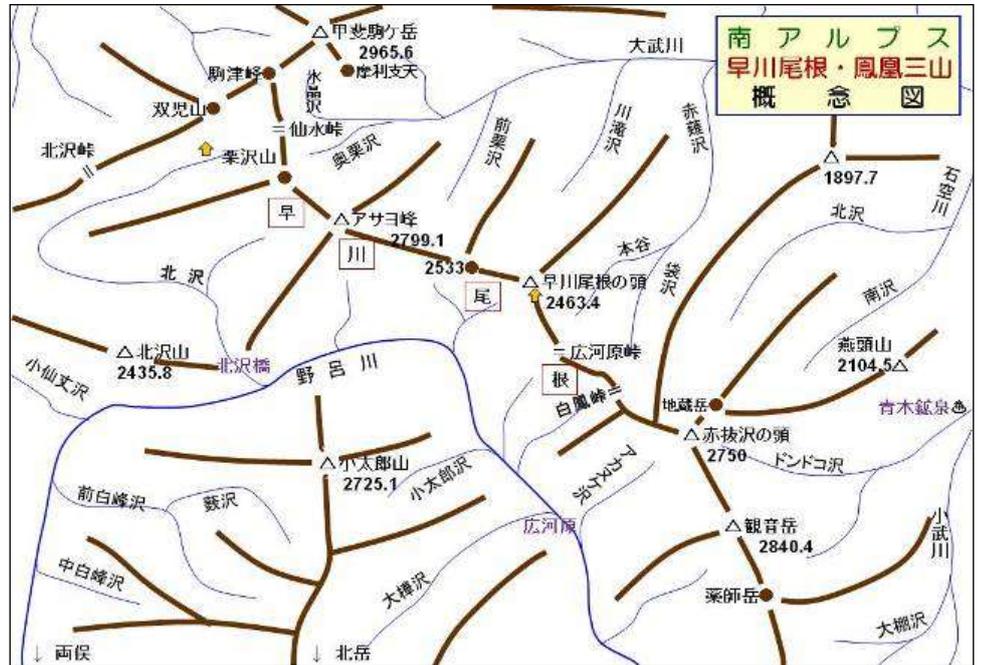


# 踏み跡 <My Mountains>

南アルプス	早川尾根・鳳凰三山縦走	No.227
-------	-------------	--------

南アルプス北部の稜線の中で、北沢峠周辺や鳳凰三山周辺には複数回出かけることがあっても、なぜか早川尾根だけが残ってしまった。地図上を見ているだけでも「展望の良さ」は十分に想像できる。昭和 61 年の蓼科山以来久しぶりに大久保君とでかけることになった。

平成 4 年 8 月 27 日  
千葉発の特急あずさが一日に一往復だけ走っているの、船橋から乗車。6 時 53 分、総武線は通勤ラッシュの真ただ中で慌ただしく人々が動いているのを尻目にゆったりと座って行く、いい気分だ。秋葉原で大久保君が合流。天気は気持ちの良い晴れで、良い旅が期待できそうな気がする。  
甲府に 9 時 05 分到着。バスターミナルで会社の甲府サービスステーションに勤務する Y 君とばったり。



バス待ちの時間を利用してコーヒーとハンバーガーで軽い腹ごしらえ。

広河原行のバスは 10 時 05 分発 (¥1,810)。広河原に 12 時 07 分に到着し、12 時 30 分の村営マイクロバスで北沢峠へ(¥750)。便利な世の中になった、船橋を 7 時前に出てきて 13 時には北沢峠に立っている。今日の行程は仙水峠までなので、途中で昼飯を食べたりしながらゆっくり入山日を楽しむことにした。仙水小屋 14 時 30 分着。小屋の手前の小沢に小型水力発電機が据え付けてある、面白そうな小屋だ。一泊二食付き ¥5,500 の贅沢な山旅、荷物を置いてひと休みの後、仙水峠を往復してみた。目の前に摩利支天が圧倒的な迫力で迫る凄まじい眺めだ。

仙水小屋は一筆に値する素晴らしいそしてユニークな山小屋だ。小屋の窓からは正面に小仙丈が、棚にはクラシック音楽の CD がずらりと並ぶ (夕食時にはその日の曲が BGM として流れる)、夕食には刺身が付いていた (無理しなくてもいいのにとはいはするが・・・)、太陽熱温水器による湯沸かし、水力発電機による発電、壁面一面に飾られた山の絵、朝食は 4 時に全員起床で。

この小屋は暗くなってからディーゼル発電機の音がしないので食後のひとときが静かで落ち着く。それでも 19 時に消灯。

平成 4 年 8 月 28 日

3 時 50 分に起床。隣の客のいびきがうるさくてあまりよく眠れなかった。この山小屋は、客の都合にかかわらず「全員 4 時に起床して朝食を食べる」とのこと。

快晴の空を窓越しに見やりながら朝食。室内はストーブを焚いて気温 16 度だが、外は 8 度。

5 時 15 分に出発。朝の冷気の中の歩き出しは、背筋が伸びる感じで気持ちが良い。仙水峠 5 時 43 分。朝の摩利支天を拝んで、空気がきれいなうちに写真撮影。(右上写真) 大雲海の空間に甲斐駒と仙丈がどっしりと立ち、しばし絶句。十分に景色を楽しんで、6 時出発。海拔 2400m あたりで森林を抜けてハイマツ帯に入った。



## 踏み跡 <My Mountains>

栗沢山 (2714m) 7時30分、正面に小太郎山と小太郎尾根を前衛に置き左に吊尾根を従えた北岳が偉そうに立っている。その右にゆったりと大きな幅の仙丈と長く長く連なる仙塩尾根の先に塩見岳。(下写真)



甲斐駒、摩利支天はもう目立たない存在になってきた。中央アルプス、木曾御岳、乗鞍、穂高連峰、笠ヶ岳、白山などなど・・・一旦立ち止まると景観にひかれてどうしても休憩が長くなってしまふ。8時15分に栗沢山を出発。アサヨへの登りが始まると甲斐駒の横に八ヶ岳が、そして早川尾根の先に地蔵岳が姿を見せ、オールスターキャスト。

アサヨ峰 (2799.1m) 9時45分、5時過ぎに歩き始めると10時にはもう空腹になる。北岳を正面に見ながら「豪華昼食会」。北アルプスは白馬方面まで良く見える。行く手右の雲海の中の富士山は威風堂々。

2553m峰 11時45分、大武川の谷は雲海だが野呂川側の谷は雲ひとつない。雲の境目にあるうねうねと繋がる稜線を歩いて行くと地図の上を歩いているような気分になってくる。おまけに北岳がいつも横に並んでいてくれるのがうれしい。

早川尾根の頭 (2463.4m) 三角点は縦走路のど真ん中に何も構えもせず立っているだけで、ひょいと跨いで通過してしまいそうなのが面白い。今度は大きなカールを正面に見せた仙丈ヶ岳が主役。

早川尾根小屋 14時10分、本日の行程はここまで。小屋の水場の水は超冷水、顔を洗っていると手が痛くなるような冷たさで、ほてった体を冷やすのには最高。一気に500cc飲み切ってひと休み。この水は美味い！！汗でぬれたものを乾かして、16時半から夕食の支度を開始。今日は素泊まりで自炊。

今宵の夕食はレトルトライスにカレー、イカの缶詰などなど。19時に就寝。

平成4年8月29日

仙水小屋とこの小屋はオーナーが同じなので、朝の起床ルールは同じだった。

4時50分に一斉(強制?)起床。日の出が見られるから行ってみると管理人に進められて小屋の外へ。

奥秩父の右側からの日の出は5時15分。薄いガスの海が気にはなるが、快晴。(右写真)

6時半出発。しばらくは樹林帯の中のプロムナード。足元を左右に見まわしながら歩いているとナンバンギセルが目にとまった。広河原峠7時、静かな原生林の中の峠。

白鳳峠8時半、本日のメインイベントである赤抜沢の頭への登りに備えて軽食と休憩をとることにした。



広河原から登ってくるパーティの声が聞こえる。10分の小休止の後高嶺への登り。

トンボの群れに囲まれて高嶺は通過。ハクサンコザクラ、トリカブトを筆頭にきれいな花が沢山目に入ってくる。このあたりはまだ夏の花が楽しめるようだ。

赤抜沢の頭 10時28分。北岳は真正面、20余年ぶりの懐かしい眺めである。(左写真：白根三山をバックに)

土曜日のせいか人が多くなってきた。昼食の後地蔵岳をピストン。稜線はかなり混雑してきたので、今日の内に青木鉦泉まで下ってしまうことにした。12時06分出発。

観音岳 (2840m) 13時19分、景色を楽しむことにして30分余り休憩。13時55分出発。

## 踏 み 跡 <My Mountains>

薬師岳（2780m）14時20分。これから始まる中道の大下り（コースタイム＝3時間）に備えてオレンジを食べて気合いを入れる。

14時40分下山開始。前半は林の中の尾根道で涼しかったが、海拔2000mより下になると高度を下げるにつれて「下界の夏」が近づきどんどん暑くなってくる。

燕頭山を正面に見るポイント（海拔2000mぐらいだろうか）で小休止、海拔1600m地点でまた小休止。海拔1200mで小武川の左岸を歩くようになった。最後は迫りくる暗闇との競争になり、青木鉱泉に18時17分に到着。

薬師岳から標高差1680m、長時間にわたる下りはかなり足の筋肉に負担をかけた。登山靴を脱いで宿の廊下を歩くと、何だか宙に浮くような感触だった。

一度泊って見たいと思っていた青木鉱泉でたつぷりと温泉を楽しみ、夕食はビールで乾杯から。

食事を始める頃には雷雨になり、約一時間豪雨に見舞われた。到着が遅れていたら大変だったろうなと他人事のように思いながら……。 (一泊二食付き¥11,000 山の帰りにしては豪華な締めくくりになった)

平成4年8月30日

久しぶりにゆっくり起床。青木鉱泉の朝は曇り空。

10時に出発し、宿のマイクロバスで葦崎駅へ。朝曇っていた空もここまで来たら晴れてきた。

葦崎発11時33分甲府行。甲府であずさに乗り換えて、まだ明るいうちに新宿に到着。

美味しい水、素晴らしい眺め、きれいな花、味のある山小屋……。すべてがきちんと記憶に残る素晴らしい山行だった。積年の懸案事項だった「早川尾根縦走」、ついにやったという満足感でいっぱいだった。

以上

